

エビデンスベースで生徒の学習と成長を可視化する

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

CONTENTS

- ① 学生調査・トランジション調査の成果
- ② 大学生の学びと成長を支援する
エビデンスベース(IR)の教育改革
- ③ 高校でのエビデンスベースの教育改革

CONTENTS

- ① 学生調査・トランジション調査の成果
- ② 大学生の学びと成長を支援する
エビデンスベース(IR)の教育改革
- ③ 高校でのエビデンスベースの教育改革

古くから「キャリア形成と学業の架橋」をテーマに～隔世の感

京都大学・電通育英会主催

『大学生のキャリア意識調査』(Since 2007)

* 現在東京大学も共催

大学生の何が成長しているか、その中身を考える。

↑学生の学びとキャリア形成をテーマに・・・

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/>
 京都大学 高等教育研究開発推進センター／財団法人 電通育英会

学研アソシエ主催

『高校教育フォーラム』(Since 2011)

* 2011-2012年は大学生研究フォーラムと共催

* 以前は学研教育みらい主催

キャリアと学びを
社会にどうつなぐか

2013年8月3日(土)・4日(日) 京都大学百周年時計台記念館

「高校教育フォーラム」の趣旨
 過去2年間、「大学生研究フォーラム」の一部として開催した「高校教職のためのシンポジウム」を発展させ、より高校現場に密着した「高校教育フォーラム」を2013年から発足させます。京都大学の協力を得て大学の先生の登壇プログラムも充実し、高校生の学びとキャリアを考える場として多様な企画を盛り込むことができました。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

フォーラムの詳細について
 2013年6月1日より、下記のホームページにてプログラムの詳細をアップいたしますので、そちらをご覧ください。
 学研概説 <http://www.gakuryoku.gakken.co.jp/>

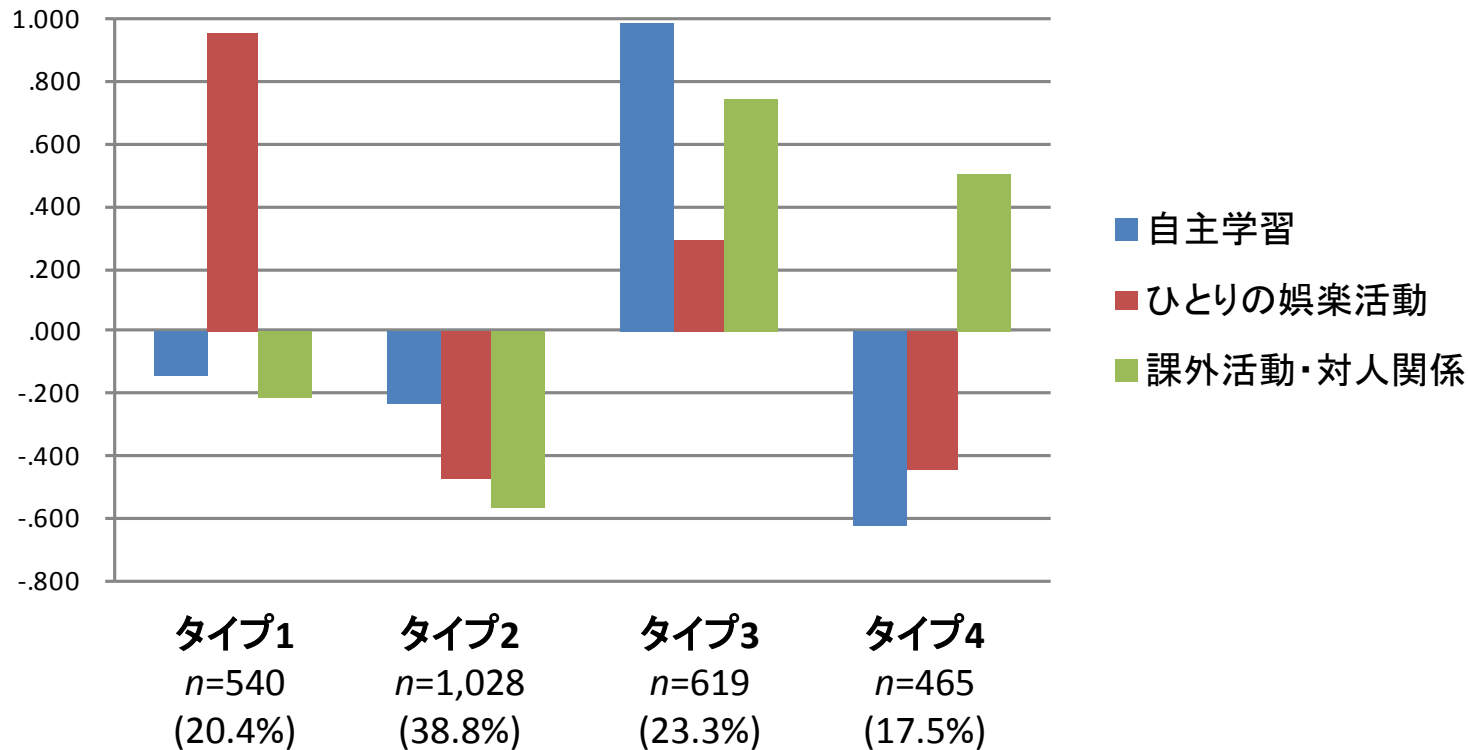
お申し込み方法
 2013年6月1日より、下記のホームページより、お申し込みください。なお、定員になり次第、締め切らせていただきますので、ご了承ください。
 学研概説 <http://www.gakuryoku.gakken.co.jp/>

会費・定員
 参加費(昼食代を含む)2,000円 懇親会費(4,000円) 定員300名
 *参加費は8月3日・4日いずれか1日参加のみで2,000円いただきます。ご了承ください。
 懇親会費は希望者のみです。

問い合わせ先
 学研教育みらい 学力開発事業部
 〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-13 タカフビル
 Tel03-3490-4501 Fax03-3779-0859

『大学生研究フォーラム』(Since 2008)

大学生生活タイプ(一週間の過ごし方)の割合



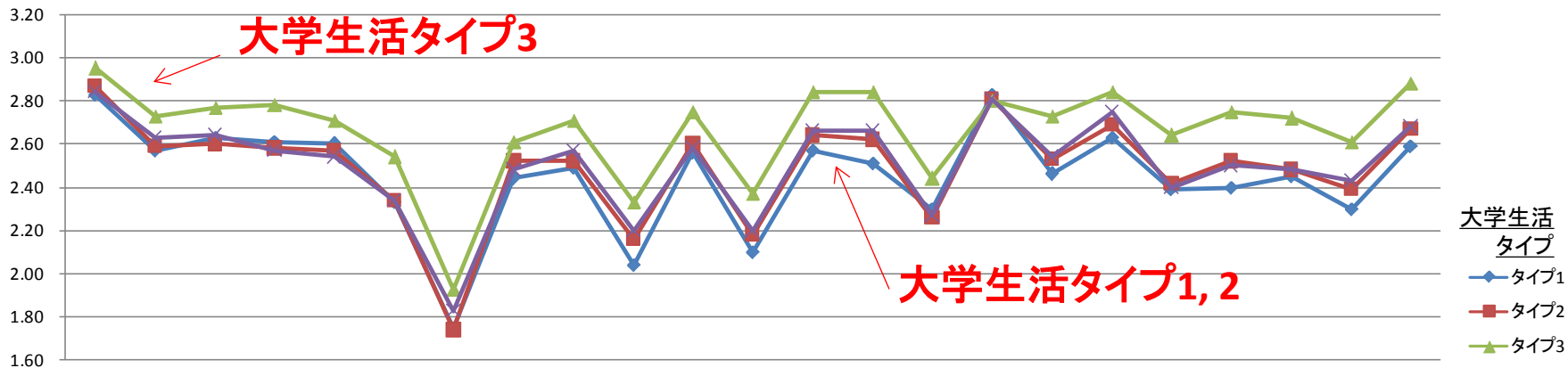
59.2%の学生(タイプ1+タイプ2)は課外活動・対人関係が弱い

Reference:

保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究—「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション— 東京大学出版会 pp.139-173.

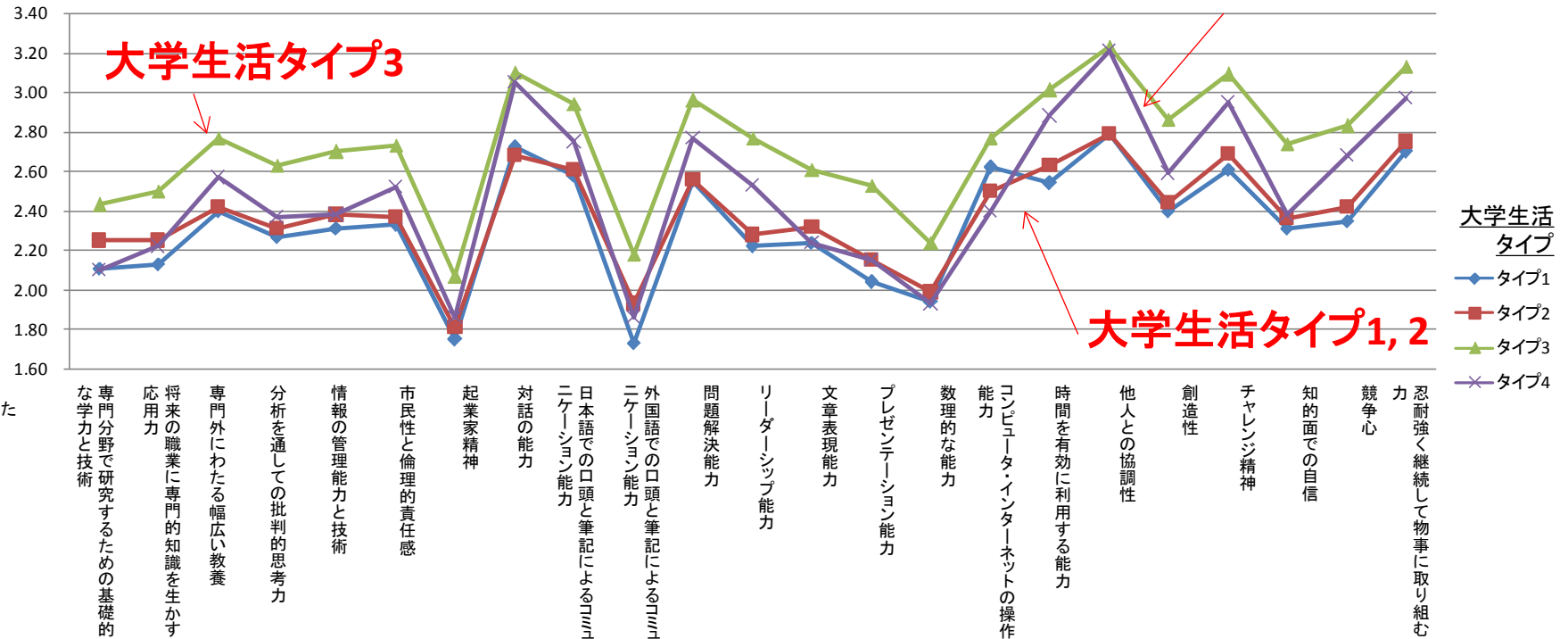
大学生生活タイプ×資質・能力

(4) かなり身についた



a. 授業で身につけた資質・能力

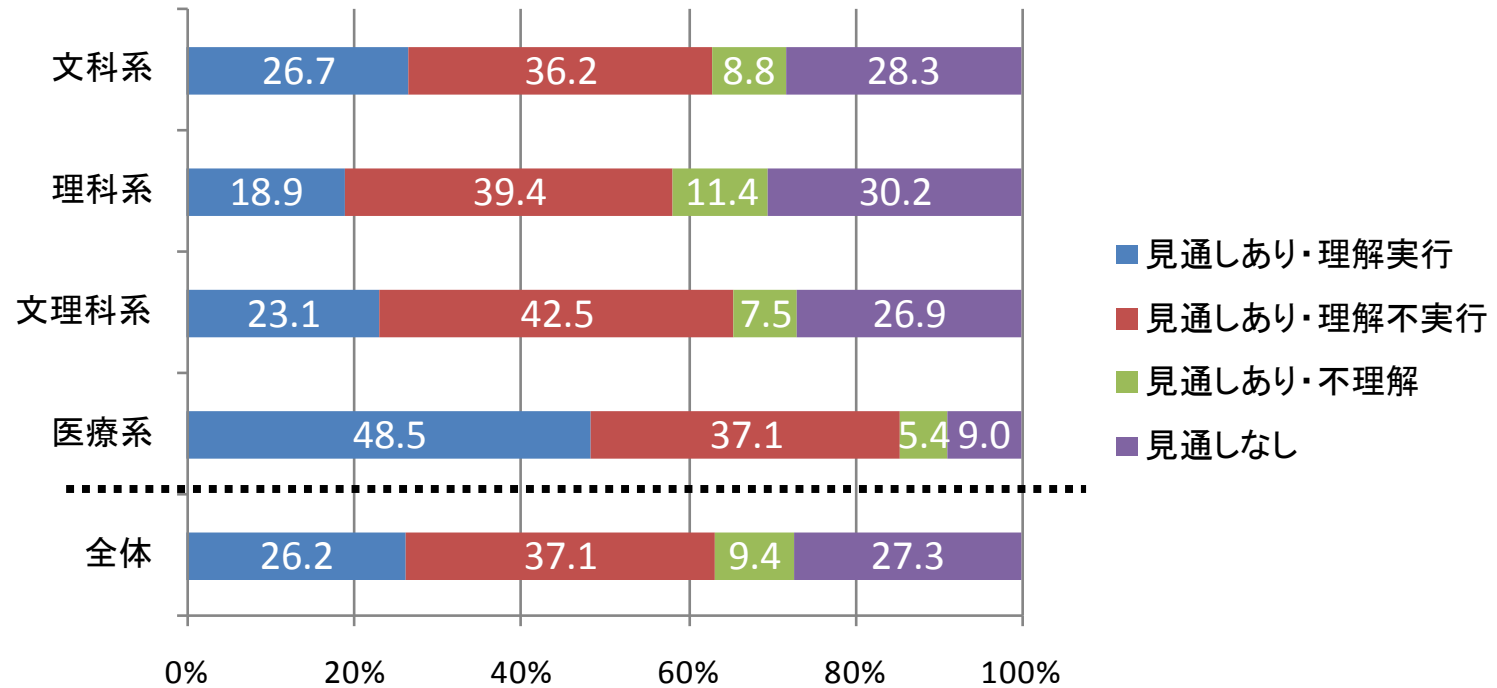
(4) かなり身についた



b. 授業外で身につけた資質・能力

二つのライフ (Future Life+Present Life)

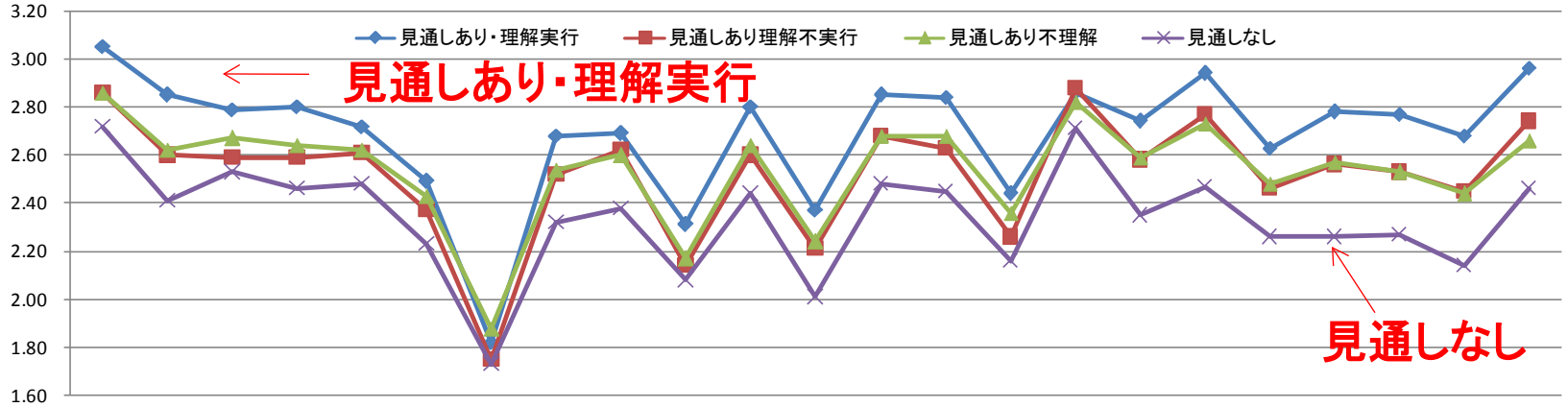
二つのライフ (将来の見通しと理解実行)



大半の学生は将来と日常が接続していない

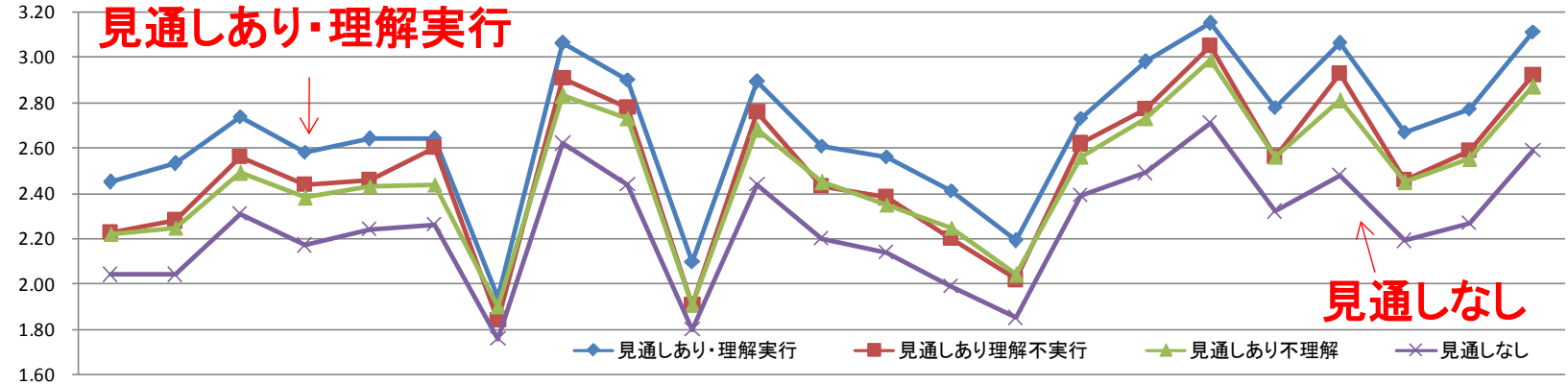
二つのライフ×資質・能力

(4) かなり身についた



a. 授業で身につけた資質・能力

(4) かなり身についた



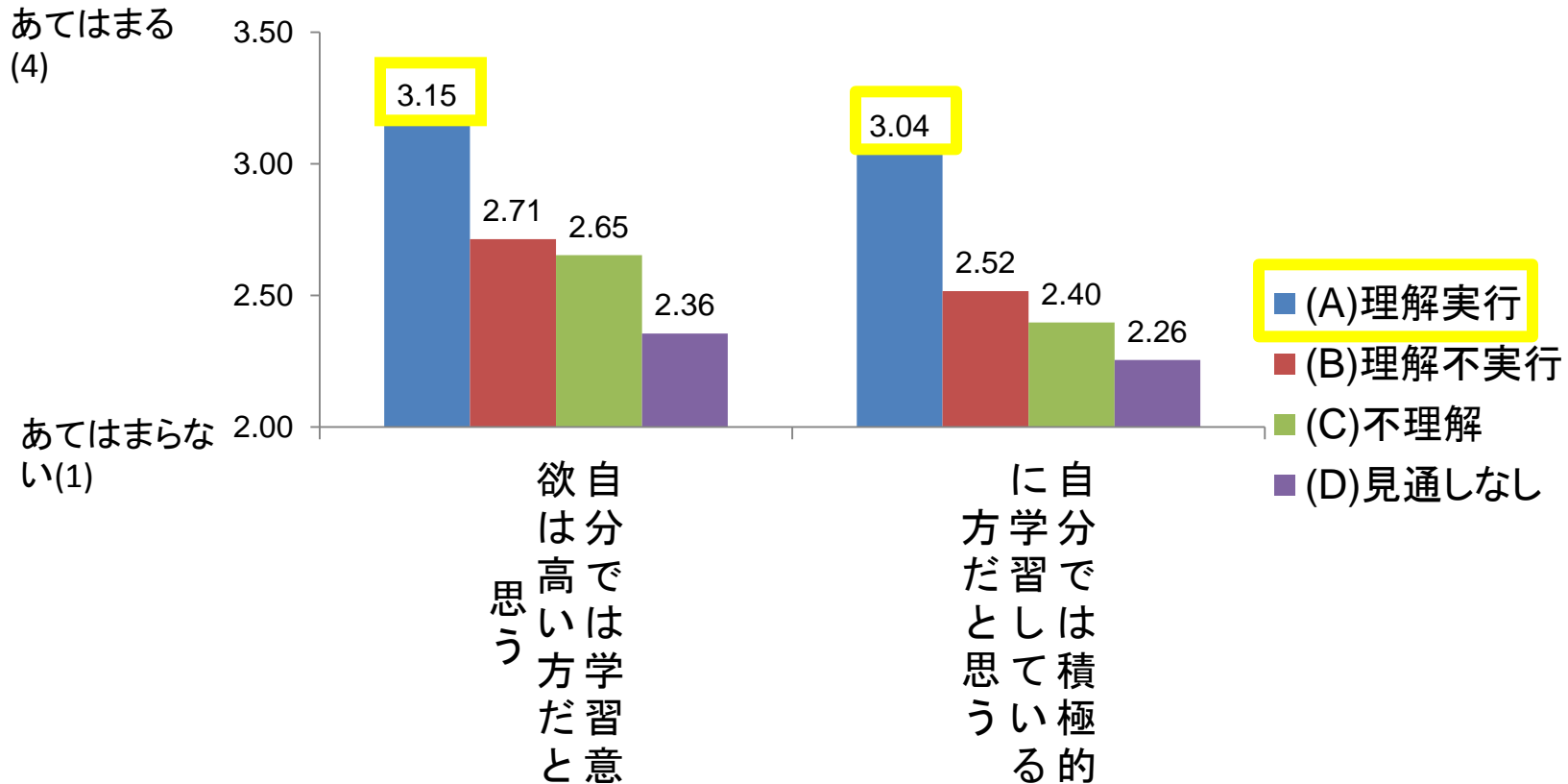
(1) まったく身につかなかった

- 専門分野で研究するための基礎的な学力と技術
- 将来の職業に専門的知識を生かす応用力
- 専門外にわたる幅広い教養
- 分析を通しての批判的思考力
- 情報の管理能力と技術
- 市民性と倫理的責任感
- 起業家精神
- 対話の能力
- 日本語での口頭と筆記によるコミュニケーション能力
- 外国語での口頭と筆記によるコミュニケーション能力
- 問題解決能力
- リーダーシップ能力
- 文章表現能力
- プレゼンテーション能力
- 数理的な能力
- コンピュータ・インターネットの操作能力
- 時間を有効に利用する能力
- 他人との協調性
- 創造性
- チャレンジ精神
- 知的面での自信
- 競争心
- 力
- 忍耐強く継続して物事に取り組み

b. 授業外で身につけた資質・能力

二つのライフは学習動機に影響を及ぼす

(『大学生のキャリア意識調査2007』)

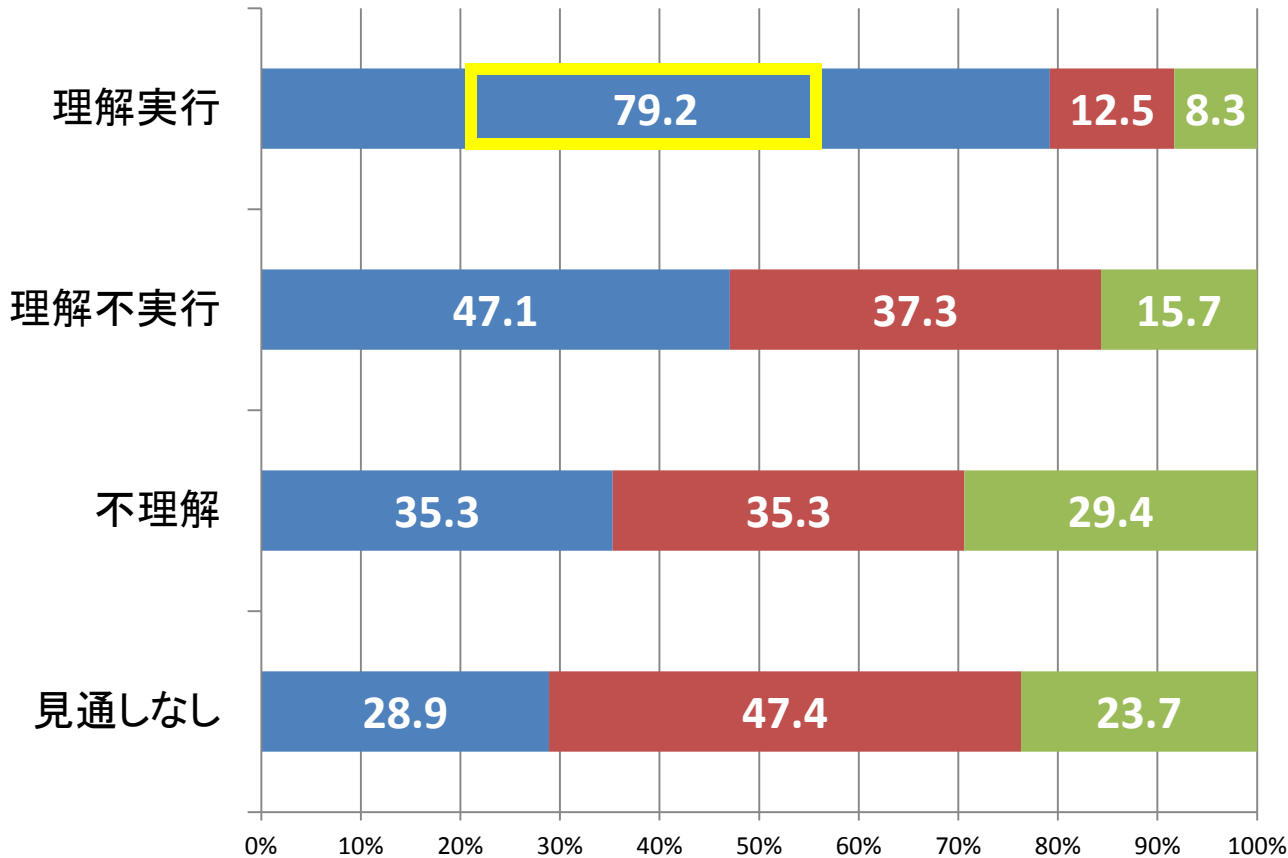


* 一要因分散分析の結果、「授業学習」「授業外学習」「自主学習」すべてにおいて1%水準以上の有意差が見られた(順に、 $F(3, 1830)=4.01, p<.01$ 、 $F(3, 1830)=15.60, p<.001$ 、 $F(3, 1830)=62.32, p<.001$)。多重比較の結果、「授業学習」(C>D)、「授業外学習」(A>B, C>D)、「自主学習」(A>B, C>D)であった。

二つのライフとアクティブラーニング型授業への参加

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

一年生の11月

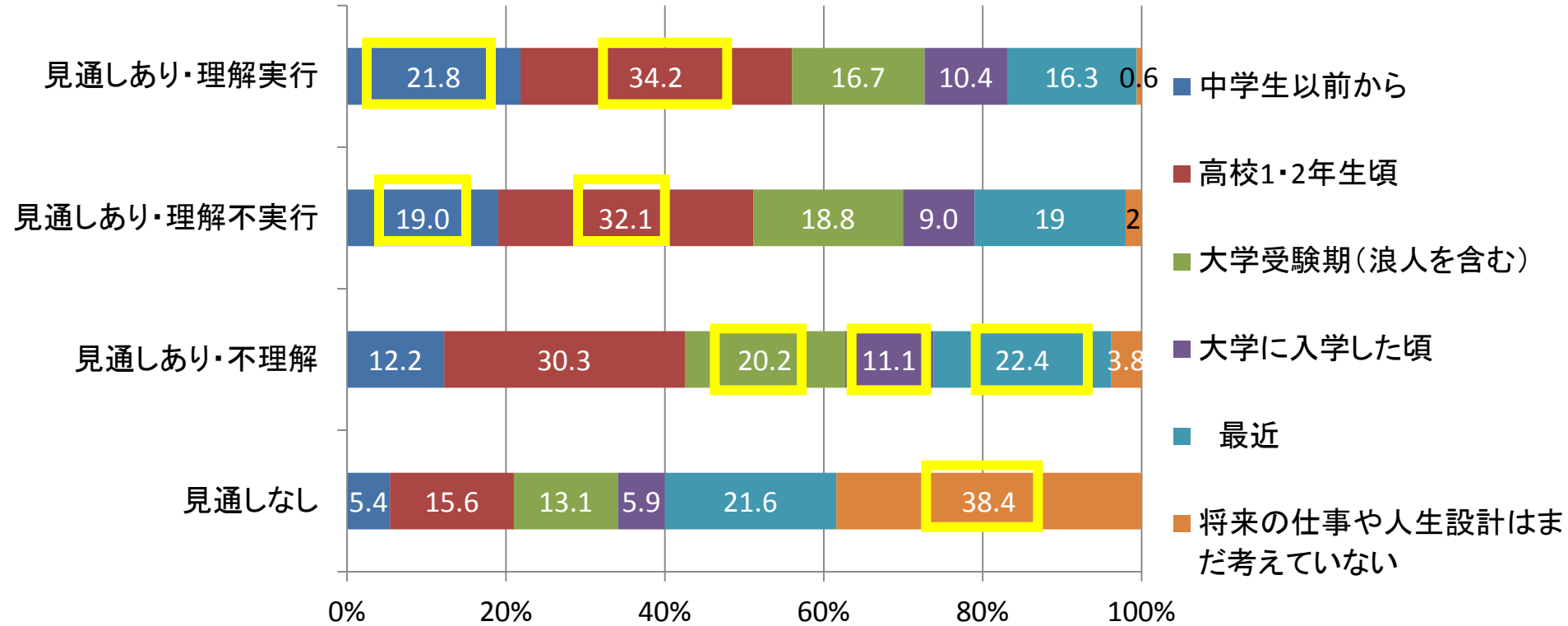


4年生11月に4年間を振り返って

- 積極的に受講
- どちらとも言えない
- 受講しなかった

いつから将来の見通しを考えていた？

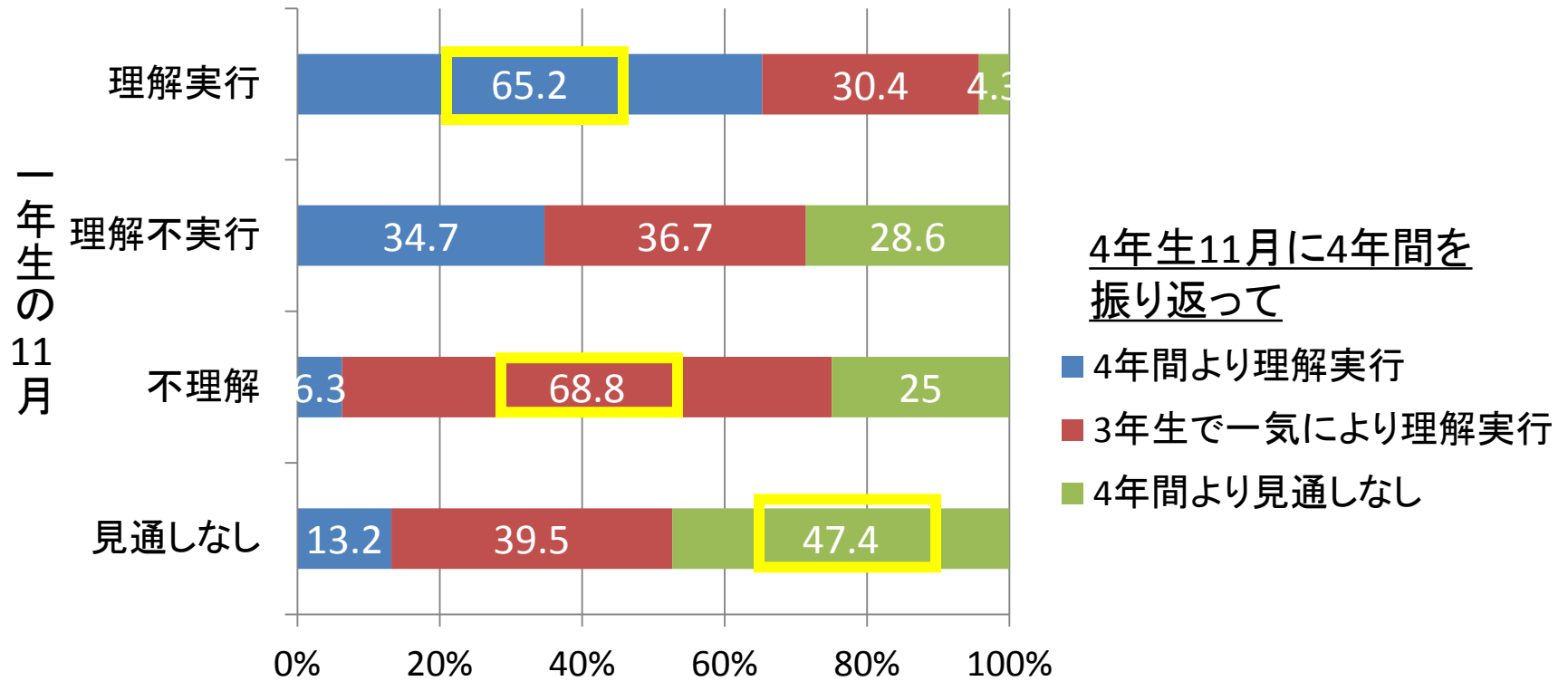
(『大学生のキャリア意識調査2010』)



(*) χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意差あり($\chi^2(15)=744.246, p<.001$)

「理解実行」は見通しを中高生から考えている

1年生が4年生になってどうなっている？（医療系は除く）



『大学生のキャリア意識調査』(Since2007)より明らかとなったこと(作業&仮説)

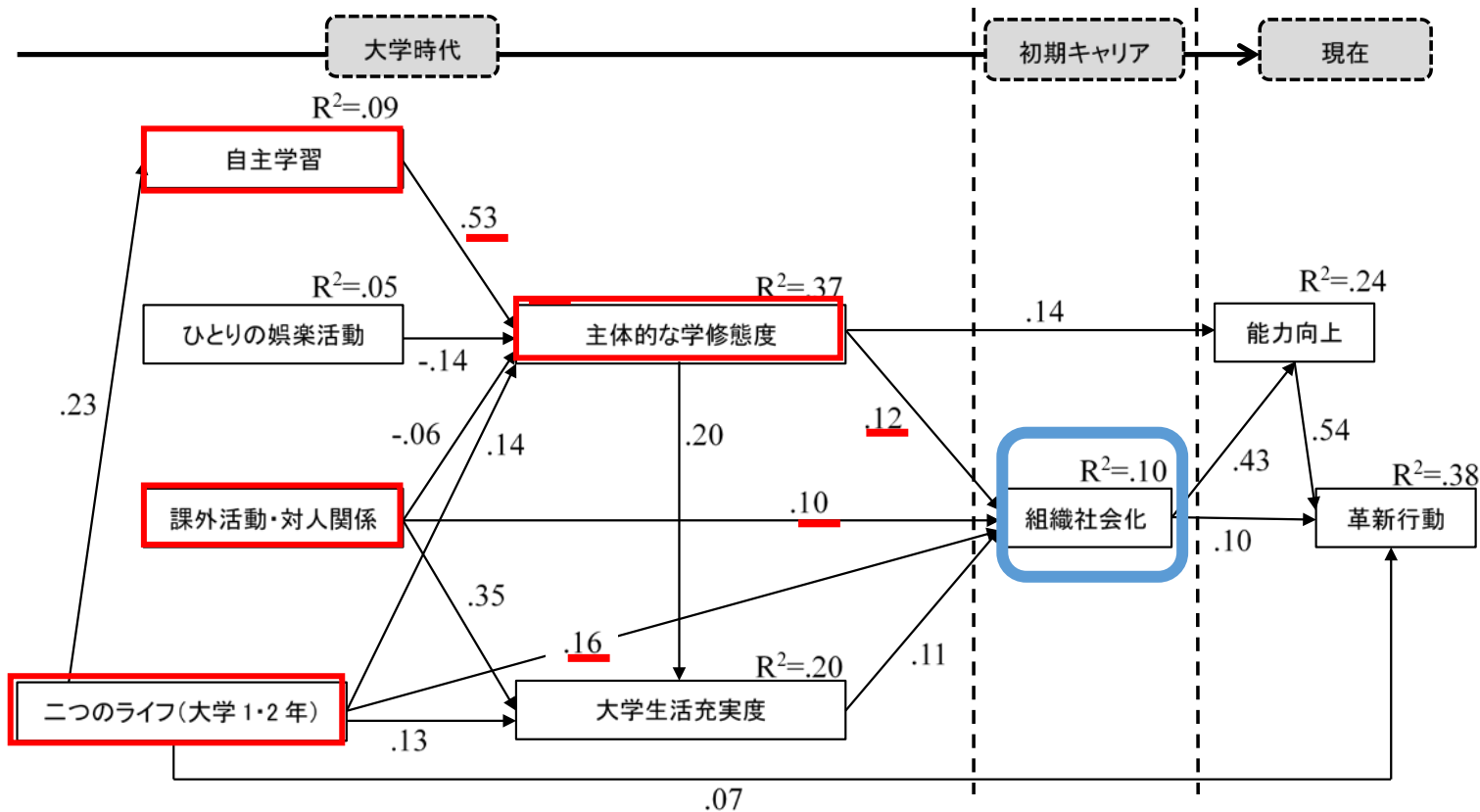
- 学生の学びと成長(student learning and development)の「成長指標」としての(昨今施策で言うところの) **資質・能力**の設定
- **授業外学習と対人関係・コミュニケーション**が成長の要因として
- **キャリア形成(二つのライフ)**が学習にも影響を及ぼし、かつ成長の要因としても
- 学び成長する大学生のキャリア形成は中学あるいは高校1・2年から始まっている？
- 二つのライフは大学4年間で変わりにくい？

Reference:

保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究—「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション— 東京大学出版会 pp.139-173.

社会人調査(25~39歳対象): 学校(高校・大学)から職業へのトランジション調査

構造方程式モデル



GFI=.947, AGFI=.898, RMSEA=.087, $\chi^2(55)=1192.568$, $p < .001$
 パス係数はすべて $p < .001$ であったため、それを示す記号の記載は省略
 「年齢」「性別」「出身大学偏差値」「出身大学(文理)」「大学での成績」で統制、
 統制変数および共分散、誤差変数の記載は省略

- ・ふり返り調査の限界はあるが、
 ほぼ仮説通りの結果
- ・キャリア、学習、対人関係の重要性

Reference:

保田江美・溝上慎一 (2014). 初期キャリア以降の探究—「大学時代のキャリア見通し」と「企業におけるキャリアとパフォーマンス」を中心に 中原淳・溝上慎一編 活躍する組織人の探究—大学から企業へのトランジション— 東京大学出版会 pp.139-173.

「学校と社会をつなぐ調査」(Since 2013年)

(通称:10年トランジション調査)

共催:京都大学高等教育研究開発推進センター
河合塾教育イノベーション本部

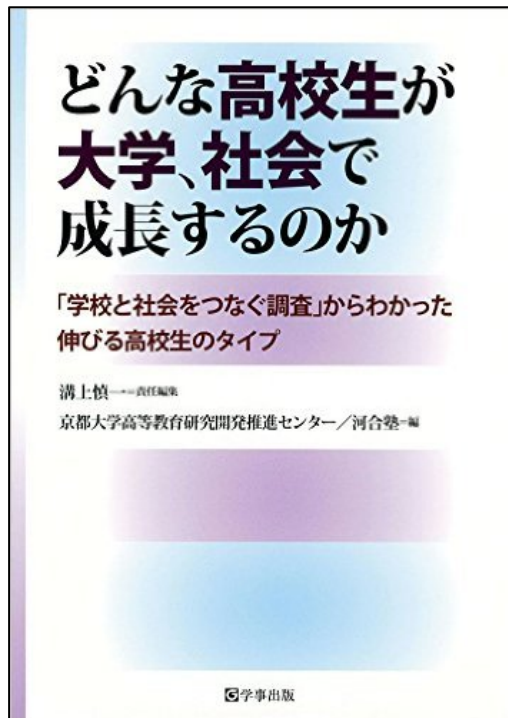
- **目的:** 高校2年生から約10年の追跡調査をおこない、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討する。
- **実施概要:** 大学進学率約7-8割以上の高校(河合塾の資料より全国約1,500校の生徒を対象)を調査対象の母集団として設定し、全国都道府県の教育委員会、高校に協力を要請して実施。教室での配布、インターネット、郵送等で、165,687名の高校生に調査票への回答を求め、結果、45,311名が回答(27.6%回答率)。

● 調査実施の流れ:



通称「10年トランジション調査」2時点目成果報告会

京都大学・河合塾主催 2016年9月24日(土) @ キャンパスプラザ京都

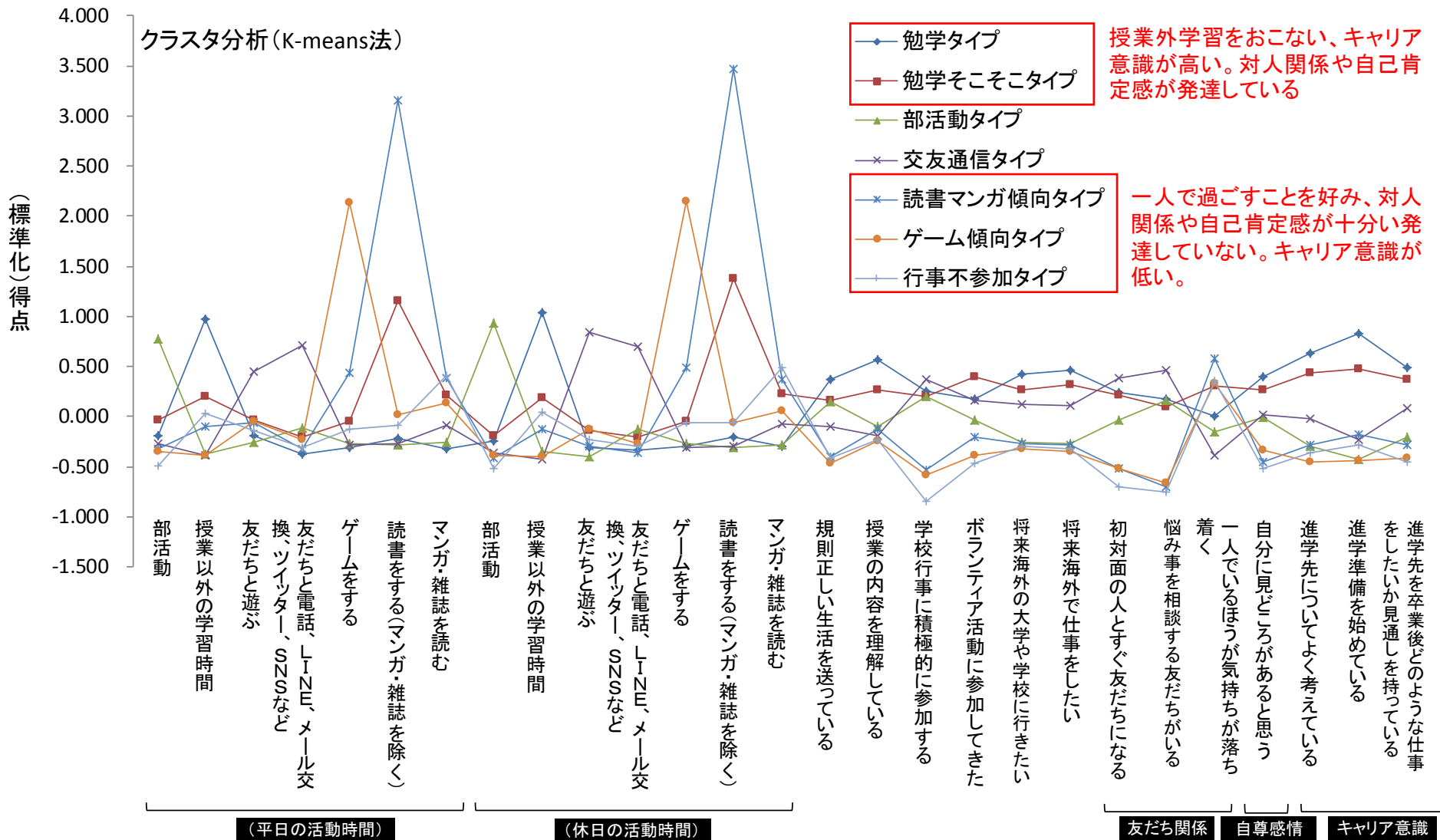


溝上慎一(責任編集) 京都大学高等教育研究開発推進センター・河合塾(編)
 (2015). どんな高校生が大学、社会で成長するのかー「学校と社会をつなぐ調査」からわかった伸びる高校生のタイプ
 ー 学事出版

京都大学でのウェブサイト

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/trans/>

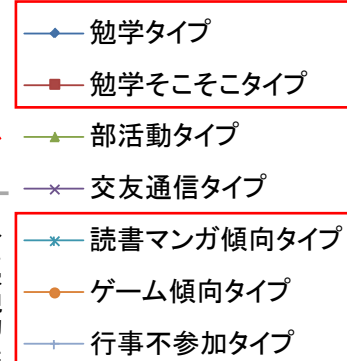
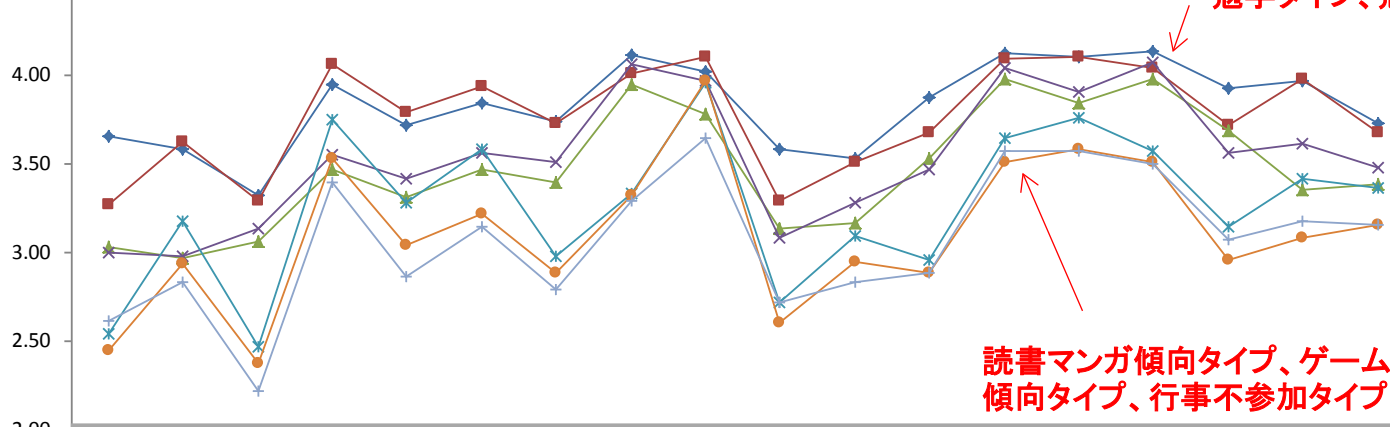
7つの生徒タイプが多様な高校生の見方を提供する



(5)伸びた

4.50

勉強タイプ、勉強そこそこタイプ



(1)伸びていない

2.00

自分を客観的に理解することができる

異文化や世界に関心を持つことができる

忍耐強く物事に取り組みることができる

人に対して思いやりを持つことができる

自分とは異なる意見や価値を尊重することができる

人の話を聞くことができる

困難なことでもチャレンジすることができる

新しいアイデアを得たり発見することができる

時間を有効に使うことができる

コンピュータやインターネットを操作することができる

他の人と協力して物事に取り組める

人前で発表することができる

自分の言葉で文章を書くことができる

他の人と議論することができる

図書館やインターネットを利用して必要な情報を得たり、わからないことを調べたりすることができる

リーダーシップをとることができる

社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる

計画や目標を立てて日々を過ごすことができる

図 生徒タイプと資質・能力との関連

・「他の人と議論することができる」「人前で発表することができる」は、対人関係が得意くらいでは身につかない。学習(アクティブラーニング)との深い関連性。

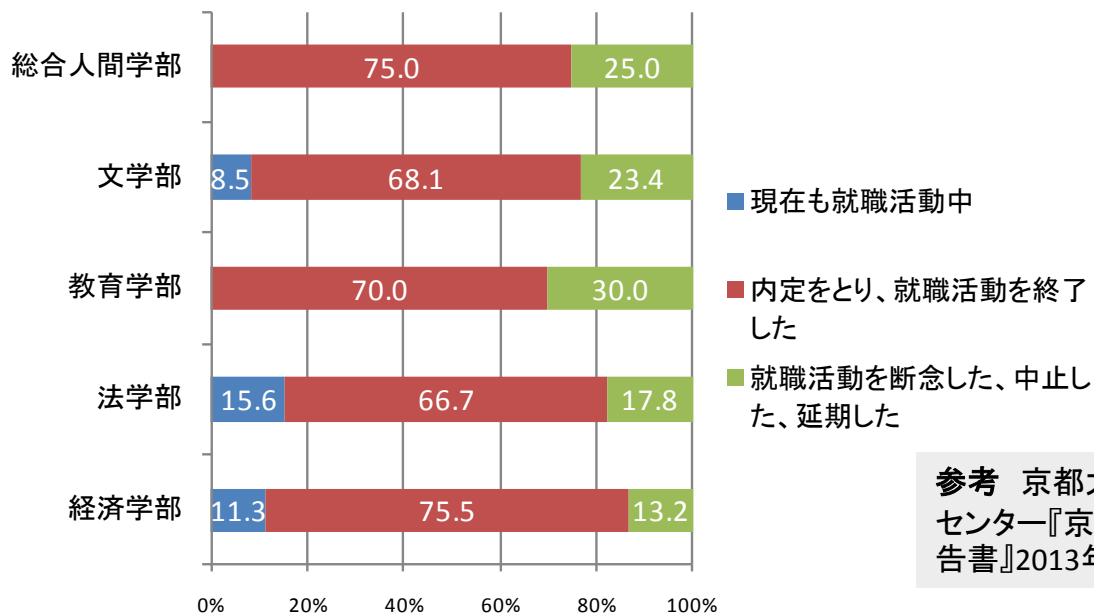
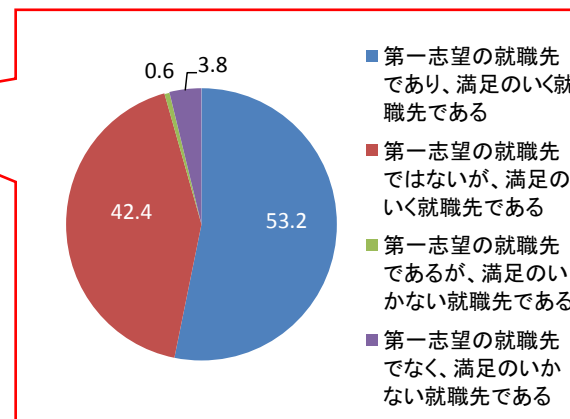
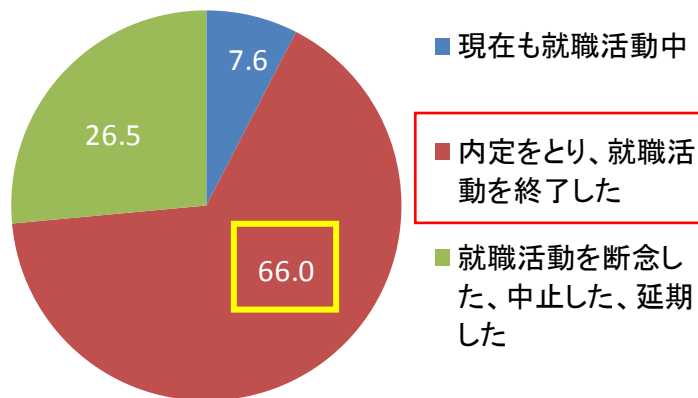
・「異文化や世界に関心を持つ」も学習と関連。

CONTENTS

- ① 学生調査・トランジション調査の成果
- ② 大学生の学びと成長を支援する
エビデンスベース(IR)の教育改革
- ③ 高校でのエビデンスベースの教育改革

京大生の就職希望者の就職活動結果

2011年調査 4年生11月



参考 京都大学FD研究検討委員会・高等教育研究開発推進センター『京都大学自学自習等学生の学習生活実態調査報告書』2013年3月

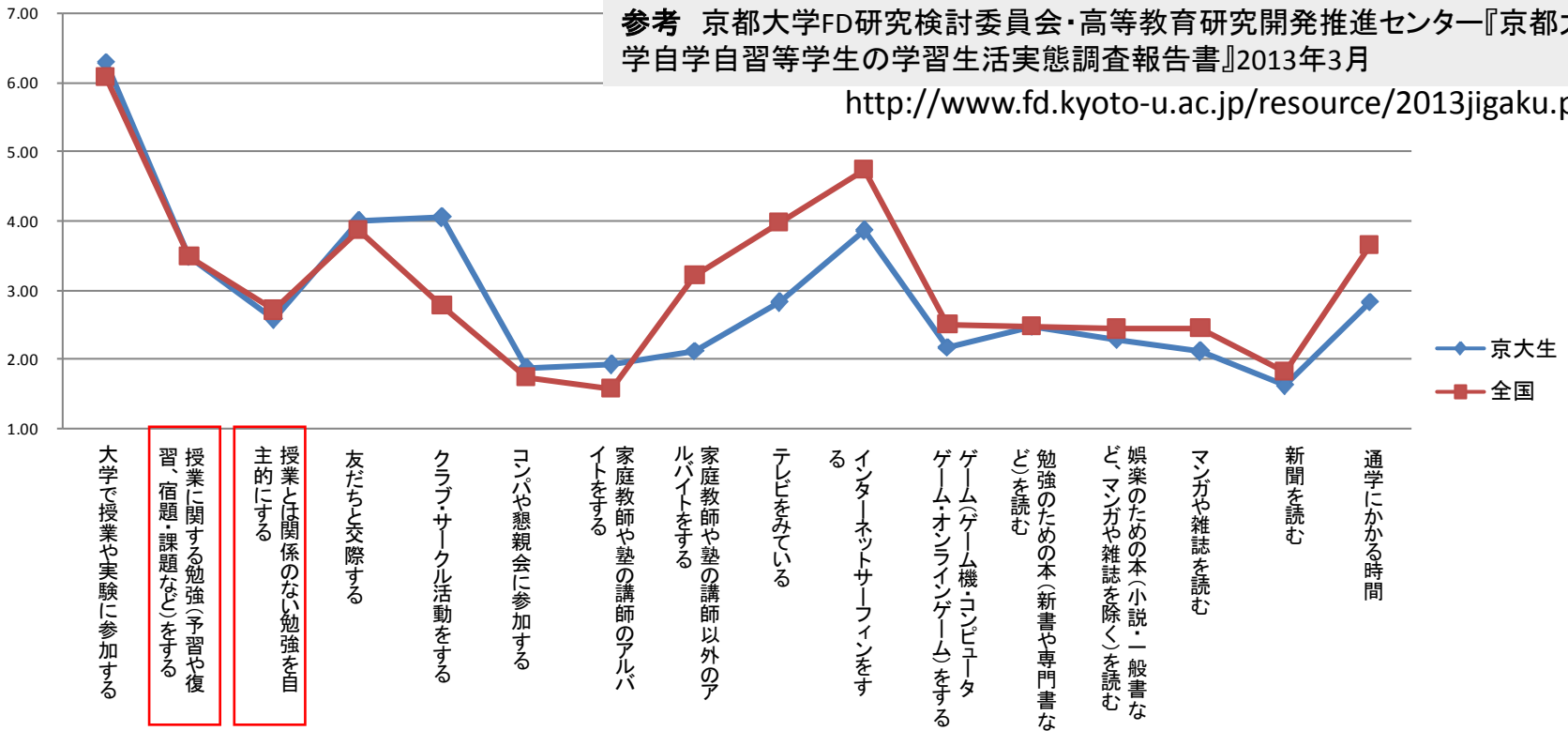
fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2013jigaku.pdf

京都大学の事例 1

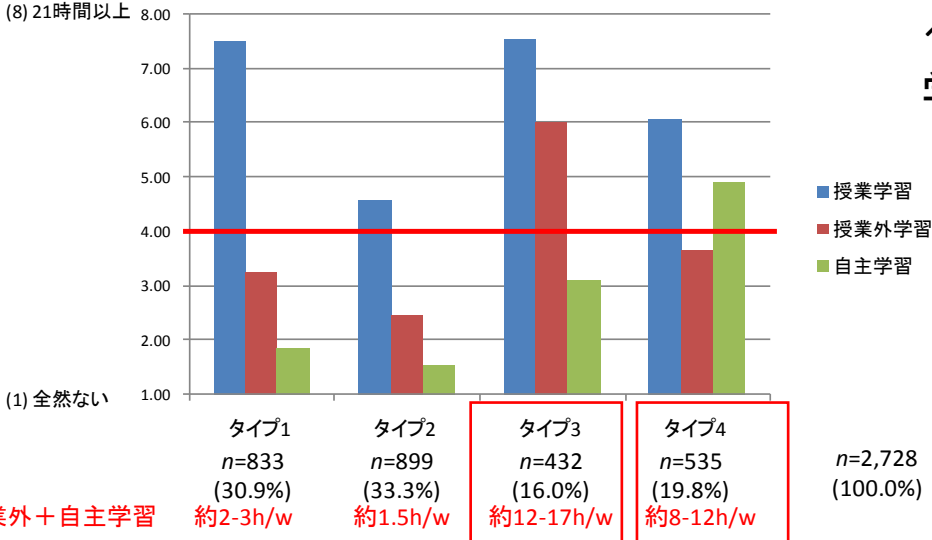
(8) 21時間以上

参考 京都大学FD研究検討委員会・高等教育研究開発推進センター『京都大学自学自習等学生の学習生活実態調査報告書』2013年3月
<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/resource/2013jigaku.pdf>

(1) 全然ない



(8) 21時間以上



↑平均で見れば、自学自習を謳う京大生の学習はなんとも...

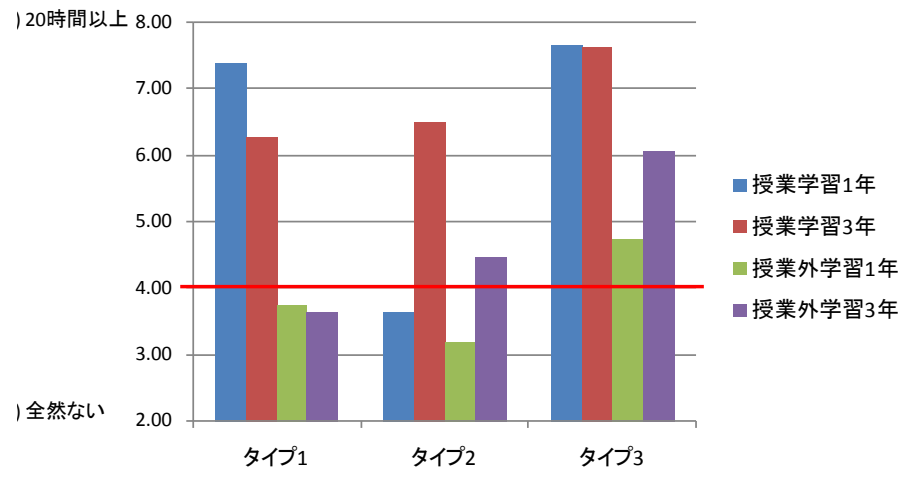
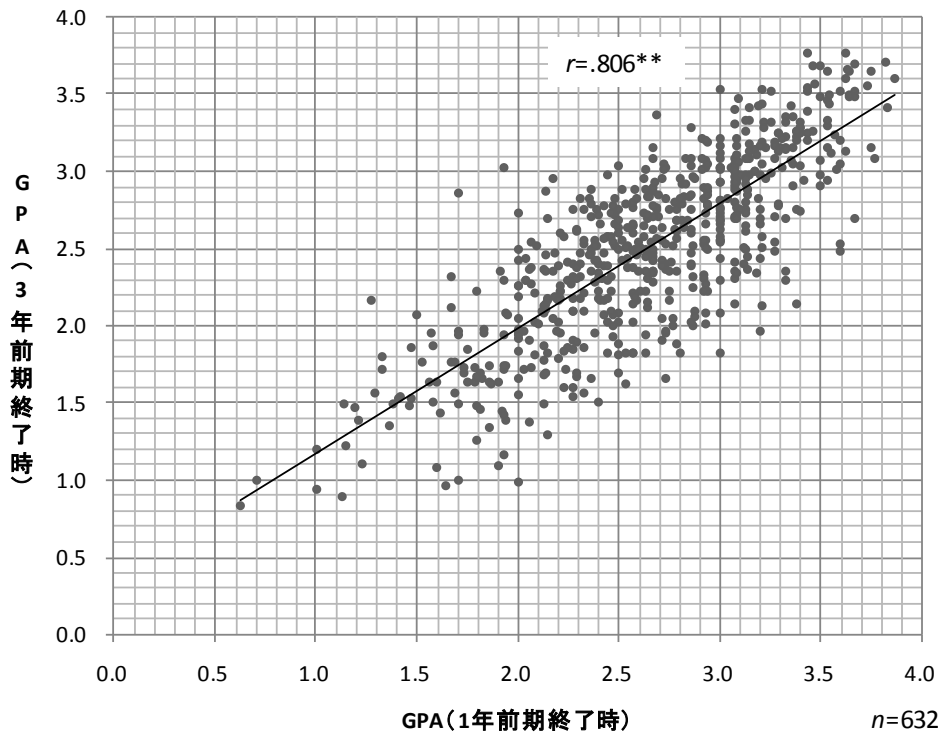
←自学自習をおこなう京大生(19.8%)に対して、授業外学習を中心に学習する一群の学生の発見(16.0%)

授業外+自主学习

タイプ	n	割合	時間
タイプ1	833	(30.9%)	約2-3h/w
タイプ2	899	(33.3%)	約1.5h/w
タイプ3	432	(16.0%)	約12-17h/w
タイプ4	535	(19.8%)	約8-12h/w

n=2,728 (100.0%)

大阪府立大学の事例



	タイプ1	タイプ2	タイプ3	合計
工学部	166 (61.3)	29 (10.7)	76 (28.0)	271 (100.0)
生命環境科学部(獣医学科以外)	48 (78.7)	6 (9.8)	7 (11.5)	61 (100.0)
生命環境科学部(獣医学科)	7 (28.0)	5 (20.0)	13 (52.0)	25 (100.0)
理学部	40 (55.6)	12 (16.7)	20 (27.8)	72 (100.0)
経済学部	43 (79.6)	0 (0.0)	11 (20.4)	54 (100.0)
人間社会学部	49 (96.1)	0 (0.0)	2 (3.9)	51 (100.0)
看護学部	12 (57.1)	0 (0.0)	9 (42.9)	21 (100.0)
総合リハビリテーション学部	34 (63.0)	0 (0.0)	20 (37.0)	54 (100.0)
全体	399 (65.5)	52 (8.5)	158 (25.9)	609 (100.0)

- ・初年次ゼミナール(2012年度～)への影響
- ・学習時間や学習行動等さまざまな変数とGPAとの関連のなさ
 - ☞「授業を欠席しない」「居眠りしない」とは相関が見られる
 - ☞GPAが学習目標に直結していない

CONTENTS

- ① 学生調査・トランジション調査の成果
- ② 大学生の学びと成長を支援する
エビデンスベース(IR)の教育改革
- ③ 高校でのエビデンスベースの教育改革

河合塾「学びみらいPASS」

http://www.kawaijuku.jp/news/shousai.php?uktk_no=000062817

■「ジェネリックスキル」を測る PROG-H(プログ)

社会で求められる「汎用的な能力」(＝ジェネリックスキル)を測定するテストです。

「知識を活用して問題を解決する力」であるリテラシーと、「経験を積むことで身についた行動特性」であるコンピテンシーを測定します。(※既に年間10万人以上の大学生が受験している「PROGテスト」をベースとして高校生向けに開発。大学生版と共通尺度で測定しているため、高校～大学における能力の成長が把握出来ます。)

■「教科学力」を測る Kei-SAT(ケイ-サット)

項目反応理論(IRT)に基づき、教科学力(英語・数学・日本語)のスコアを段階評価に換算して提示します。実施時期・受験者集団・出題内容に左右されない、全学年共通の学力指標で、学力伸長を正確に把握できます。

■「キャリア意識(興味・関心)」を測る R-CAP for teens (アール-キャップ)

* R-CAP for teens は(株)リアセックの開発商品です。

学問適性、職業適性、キャリア意識に関するアセスメントです。客観的に自身を知る手がかりになると同時に、キャリア意識を高める機会ともなります。

■「学習・生活パターン」を測る LEADS(リーズ)

日々の時間の使い方、友人関係、進学・就職意識など、日ごろの学習・生活実態を把握するためのセルフチェックツールです。

生徒タイプの特徴を把握し、生徒指導に役立てることができます。

生徒タイプ



河合塾

ご清聴有り難うございました

CONTENTS

- ① 学生調査・トランジション調査の成果
- ② 大学生の学びと成長を支援する
エビデンスベース(IR)の教育改革
- ③ 高校でのエビデンスベースの教育改革

興味があればお読みください

溝上慎一 (2014). アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換 東信堂

アクティブラーニングを理論的・実践的に包括的に概説した著書。
第1章:アクティブラーニングとは 第2章:なぜアクティブラーニングか
(教えるから学ぶへ、情報・知識リテラシー) 第3章:さまざまなアクティブラーニング型授業(ピアインストラクション、LTD話し合い学習法、PBLなど) 第4章:アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫(ディープ・アクティブラーニング、授業外学習、逆向き設計、反転授業) 第5章 揺れる教授学習観(ラーニングピラミッドの功罪など)



溝上慎一監修 (2016年3月新刊)

『アクティブラーニング・シリーズ全7巻』(東信堂)

- ・第1巻 アクティブラーニングの技法・授業デザイン (安永悟・関田一彦・水野正朗編)
- ・第2巻 アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習 (溝上慎一・成田秀夫編)
- ・第3巻 アクティブラーニングの評価(松下佳代・石井英真編)
- ・第4巻 高等学校におけるアクティブラーニング:理論編(溝上慎一編)
- ・第5巻 高等学校におけるアクティブラーニング:事例編(溝上慎一編)
- ・第6巻 アクティブラーニングをどう始めるか(成田秀夫著)
- ・第7巻 失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング(亀倉正彦著)



各巻の詳細は[こちら](http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf) (<http://smizok.net/ALflier03-2016.pdf>)

(このチラシにある申込書を使えば、全巻セツ11,800円が10,000円で購入できます)

チューリップMLを作りました

中学高校に関するイベントや研究会の案内を受け取る、あるいは自由に投稿できるチューリップMLを作りました。

全国の中学高校関係者に配信されます。

情報を欲しい方、発信したい方はメンバー登録の上、どうぞご利用下さい。
<http://kyoto-u.s-coop.net/tulip/index.html>

桐蔭学園の「授業見学」のご案内



◆桐蔭学園はAL型授業向上を目指して、外部からの授業見学をいつでも受け付けています。見学したい方は下記にご連絡下さい。

担当： 佐藤透 (satohru@toin.ac.jp)

11/12-13: 桐蔭学園「アクティブラーニング公開研究会2016」

◆ 11/12(土) 午後

- ・ 中学高校の授業20科目公開授業＋検討会
- ・ 探究的な学習の発表会
- ・ 講評 数学: 川添充(大阪府立大学教授)
古典: 吉野朋美(中央大学教授)

◆ 11/13(日) 9:00~

- ・ 基調講演 森朋子(関西大学教授)
「アクティブラーニング型授業としての反転授業
ー「わかったつもり」を「わかった」へー」
- ・ 全国の事例報告
郡司直孝(北海道教育大学附属函館中学校) (社会科)
三好達夫(大阪府立四条畷高校) (理科)
山田英雄(かえつ有明中学校・高等学校) (サイエンス科)
瓜生純子(福岡県教育センター)
(福岡県立学校 新たな学びプロジェクト)
- ・ 総括講演 溝上慎一(京都大学教授)
- ・ 参加者同士の交流を兼ねたリフレクションセッションもあります

参加定員600名。会場: 桐蔭学園 <http://toin.ac.jp/>
ご案内は、チューリップML(前のスライド)でいたします。



講師プロフィール

<http://smizok.net/>

1970年1月生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手、2000年講師、2003年京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。2014年より教授(現在に至る)。大学院教育学研究科兼任。教育アセスメント室長。京都大学博士(教育学)。



Shinichi Mizokami's Website

プロフィール 著書・論文 学会発表 社会活動 青年期研究 大学教育研究 リンク 連絡・編集

ようこそ頂上惟一のホームページ2007へ
Shinichi Mizokami's Website 最終更新日 2012年6月28日

(TEL) 075-753-3047 (研究室)
(E-Mail) mizokami.shinichi.ka@kyoto-u.ac.jp (atを@に変更してつめて下さい)

2012年11月をもって、ホームページデザインを2004年度版から2007年度版へとリニューアルしました。1999年専攻から教員として、4年目のリニューアルです。今回のコンセプトは「簡潔」と「継承」です。

真上研究室(教育学研究科・高等教育開発推進センター)の大学院生

最新情報

- 【研修写真】「国境を越える力を担う東洋の二つE17系一様演習録」研修快報 録上。(趣味・雑考0628-2012)
- 「大学生研究フォーラム2012」(8/19)、「高校教職のためのシンポジウム」(8/20) 開催案内(05/19-2012)
- 2012年6月19日(日)に、京都大学・東京大学・電通委員会共催による「大学生研究フォーラム2012」を開催いたします。本フォーラムでは、一貫して学業とキャリアの両輪を重視してまいりました。今回それぞれに「グローバルキャリアの時代に大学教育は何かできるか」を加えて、学生の学びと成長を大きく検討したいと思います。プログラムの詳細、申し込みはこちら
- 申し込み定員は50名です。先着順で申し込みを受けたいです。

また、同日の6月20日(月)には、学研教育みらいの協力による「高校教職のためのシンポジウム」を開催いたします。今年の一テーマは「キャリアと学業を両立させるにはどう進めるか」です。高校教職以外の方も参加いただけます。ふるってご参加ください。プログラムの詳細、申し込みはこちら(上記と同じ)

日本青年心理学会常任理事、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『大学教育学会誌』編集委員、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザー、学校法人桐蔭学園教育顧問ほか、大学のAP委員、高校のSGH/SSH指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年心理学(現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化)と高等教育(学習と成長パラダイム、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学－他者の森を駆け抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学－適応から自己形成の時代へ－』(2010有斐閣選書、単著)、『大学生の学び・入門－大学での勉強は役に立つ！－』(2006有斐閣アルマ、単著)、『高校・大学から仕事へのトランジション－変容する能力・アイデンティティと教育－』(2014ナカニシヤ出版、編著)、『活躍する組織人の探究－大学から企業へのトランジション－』(2014東京大学出版会、編著)、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』(2014東信堂、単著)など多数。